

良日持ち性ダリアの選抜

～ダリアの消費拡大に向けて～

農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が交配により作出した系統について、奈良県における栽培適応性の評価をしました。試験の結果、切り花品質や生産性に問題がなく、日持ち性に優れている系統 505-13 を有望系統として選抜しました。

1. 背景と目的

奈良県ではダリアの球根および切り花の生産が盛んに行われていますが、ダリアの切り花は一般に日持ちが悪く、日持ち性の向上が消費拡大のための課題となっています。

この課題解決に向け、奈良県では共同研究により良日持ち性ダリアの育成を進めてきました。農研機構が交配により作出した系統について、現地への普及を見据え、奈良県における栽培適応性の評価、選抜を実施しました。

2. 研究成果の概要

奈良県の作型で栽培した時に、切り花品質や生産性に問題がなく、日持ち性に優れていることを選抜の基準としました。作型は宇陀市を中心とした夏秋期出荷作型と、葛城市における冬春期出荷作型を想定し栽培しました。

平成 29 年度に 11 系統から 2 系統を選抜、平成 30 年度に新たな 10 系統を加えた 12 系統から 5 系統を選抜しました。平成 31 年度には 5 系統から良日持ち性の系統 505-13 を選抜しました（表、図）。

系統 505-13 は既存品種と同等の開花期であり十分な切り花長が確保できます。茎が硬く、観賞時の茎曲がりや茎折れもみられません。大輪の花であることから観賞性が高いと考えられ、夏秋期における無電照栽培で露心（管状花の露出）しない点も優れている特性です。日持ち性にも優れており、日持ち日数は既存品種の中で日持ちが良い‘ミッチャン’以上となりました。

3. 実用化に向けた対応

系統 505-13 に加え、早生で収穫の回転率に優れる系統 629-18、品質保持剤の処理効果が高い系統 606-46 が他の研究機関の結果を踏まえ、有望と判断されました。本 3 系統については令和 2 年度、現地実証を予定しており、生産性に加え、市場性を評価します。また、新たな有望系統についても同様の試験をする予定です。系統 505-13 のように奈良県の作型に合った良日持ち性ダリアが流通することにより、既存のイメージを払拭し、消費拡大および生産振興に繋がればと考えています。

表 冬春期作型における農研機構育成系統の栽培特性および日持ち性

系統・品種	平均開花日 (月/日)	切り花 長 (cm)	花径 (cm)	日持ち日数(日)		
				蒸留水	GLA	GLA+BA [※]
505-13	1/7	129	19	9.3	12.5	12.8
606-46	12/26	109	11	8.8	10.8	14.5
629-18	12/12	88	13	8.0	10.0	12.5
かまくら	1/16	151	15	6.0	7.0	9.0
黒蝶	1/10	129	20	6.5	8.0	8.3
ミッチャン	1/2	141	12	7.3	9.3	12.0

※GLA:蒸留水に糖と抗菌剤を加えた生け水を使用
GLA+BA:GLAを生け水とし、観賞開始時にミラクルミスト®を頭花に散布処理



図 農研機構育成の良日持ち系統
(左: 505-13、右上: 629-18、右下: 606-46)

(育種科 辻本 直樹)